

1 情勢報告

研修農園「営農みらい塾」入講式が行われました



研修許可証の授与

5月9日、JA津野山営農センターで、平成23年度研修生1名の入講式が行われました。

JA津野山組合長による研修生の紹介のあと、来賓を代表して農振センターから激励の言葉を贈りました。

梶原町の研修生からは、「農業は始めてだが、日々米ナスが育っていくことや出荷することを楽しみに、しっかり研修を受け、就農したい」との決意表明がありました。

今後は、就農に向けて、関係機関と連携した支援を行っていきます。

JA津野山管内の簿記講習会を開催しました



講習会の様子

JA津野山管内では、梶原町・津野町担い手育成総合支援協議会が主催し、JA津野山営農指導員が講師を勤める簿記講習会を開催しました。

平成23年度は5月9日が第1回目で、参加者は主に新規就農者で、初心者向け複式簿記記帳講習を5回実施する予定です。

12月からは、決算等についての講習会を計画しており、簿記記帳技術の習得による経営状況の把握、またその後の経営改善への活用を支援していきます。

「芳生野営農生産組合」の経営について助言等を行いました



記帳内容の確認の様子

5月10日、芳生野営農生産組合の会計・事務担当者、会計補佐に対して、簿記記帳についての指導助言、また四半期の経営状況等についての助言・意見交換を行いました。

月毎のお金の動きから、資金繰り等についての意見が出されました。

今後も、定期的に、経営についての助言等を行っていきます。

須崎市認定農業者連絡協議会総会及び講演会の開催



講演会

4月28日、第9回須崎市認定農業者連絡協議会総会が17名参加で開催されました。会長からは研修会等の認定農業者のメリットを生かす取組を進めていく方針が出され、事業・予算が承認されました。会終了後経営コンサルタントの寺本さんの講演をいただき、「人口（消費者）が減少する、物が売れない時代なので、目指す姿・目標をはっきりと持つことが大切」と話され、環境の変化に対応出来るよう情報収集等をすることを確認しました。

今後も振興センターから認定農業者への情報提供等を行って行きます。

情勢報告

ニラの灌水同時施肥技術講習会が開催されました



講習会の様子

5月13日に、JA土佐くろしおニラ部会の点滴チューブ利用による灌水同時施肥技術の講習会が開催されました。

振興センターからは同技術についてスライド説明を行い、既に導入されている農家からは経験談を話してもらい、同技術についての理解を進めてもらいました。「利用する用水の注意、設置方法、同技術の省力性、同技術により病害発生が減少する等」の活発な意見交換もできました。

JA土佐くろしお管内の本年度の同技術の普及（戸数）率は、約30%になりますが、JAと連携して今後とも現地検討会や個別巡回指導を行い、高品質多収ニラ生産にむけての技術面でのサポートをしていきます。

制度資金借受農家の個別面談を行いました



面談の様子

4月27日から、JA土佐くろしお管内の制度資金借受農家に対して個別面談を実施しました。個別面談では、決算データをもとにした経営分析・診断を行い、経営目標の達成状況の確認と経営目標設定への支援を行いました。

個別面談には、JA営農指導員にも同席してもらい、本人の月別収量実績を地域平均と対比させる資料を提示してもらうことで、より具体的な課題の検討ができました。

借受農家からは、「経営診断を受けることで、経営状況がよく分かり、改善されたことなどが数字で分かるので、こうした面談は続けてほしい」と言った声も聞かれました。

今後も制度資金借受農家に対し、経営改善に向けての指導、助言を行って行きます。

ミョウガ品目別研究会を開催しました



品目別研究会

5月24日、第1回ミョウガ品目別研究会を須崎市で開催しました。安芸地域から幡多地域までの県内各産地の生産者や、JA・園芸連・農業技術センター・農業振興センターなど関係機関の職員38名が現地研修と情報交換を行いました。

須崎農業振興センターからは、「ミョウガの灌水管理の実証試験」についての中間報告を行い、参加者から意見を頂きました。

情報交換では、ミョウガは順調に生育しており、夏場の需要期に向けて安定した生産が見込まれていることが各産地から報告されました。

次回の品目別研究会は、JAや農業技術センターと連携して2月に開催する計画です。